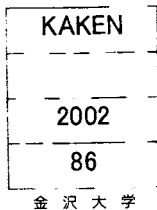


高等動物ATMファミリーの細胞周期制御における機能とその活性化

著者	山本 健一
著者別表示	Yamamoto Ken-ichi
雑誌名	平成14(2002)年度 科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究成果報告書
巻	2001-2002
ページ	4p.
発行年	2003-03
URL	http://doi.org/10.24517/00050568





高等動物 ATM ファミリーの細胞周期制御
における機能とその活性化

(研究課題番号 13680776)

平成 13 年度～平成 14 年度科学研究費補助金 [基盤研究(C)(2)]

研 究 成 果 報 告 書

平成 15 年 3 月

研究代表者 山本 健一
(金沢大学がん研究所教授)

金沢大学附属図書館



0300-02191-7

研 究 組 織

研究代表者： 山 本 健 一

研究分担者： 清 水 弘 子

交付決定額（配分額）

（金額単位：千円）

	直接経費	間接経費	合 計
平成13年度	2,200	0	2,200
平成14年度	1,300	0	1,300
総 計	3,500	0	3,500

研 究 発 表

（1）学会誌等

- 1) rimura, Y., Ogimoto, M., Mitomo, K., Katagiri, T., Yamamoto, K., Volarevic, S., Mizuno, K. and Yakura, H. CD45 is required for CD40-induced inhibition of DNA synthesis and regulation of c-Jun NH₂-terminal kinase and p38 in BAL-17 B cells. *J. Biol. Chem.*, 276, 8550-8556, 2001.
- 2) Xiang, S., Kumano, T., Iwasaki, I., Sun, X., Yoshioka, K. and Yamamoto, K. The J domain of Tpr2 regulates its interaction with the proapoptotic and cell cycle checkpoint protein, Rad9. *Biochem. Biophys. Res. Comm.*, 287, 932-940, 2001.
- 3) 山本健一 「酸化ストレス応答における ATM と c-Abl の役割とその活性制御」 別冊・医学のあゆみ“酸化ストレス”平成13年
- 4) Muraoka, K., Shimizu, K., Sun, X., Tani, T., Izumi, R., Miwa, K. and Yamamoto, K. Flavonoids exert diverse inhibitory effects on the activation of NF- κ B. *Transpl. Proc.*, 34, 1335-1340, 2002.

- 5) Li, Y., Shimizu, H., Xiang, S., Maru, Y., Takao, N. and Yamamoto, K. Arg tyrosine kinase is involved in homologous recombinational DNA repair. *Biochem. Biophys. Res. Comm.*, 299, 697-702, 2002.
- 6) 山本健一 「AT における神経細胞障害」 臨床免疫第37巻5号、平成14年
- 7) 山本健一 「血清アミロイド A 蛋白(SAA)」 廣川タンパク質化学 第5巻 (血漿タンパク質 II) 廣川書店、平成14年

(2) 口頭発表

- 1) 清水弘子、善岡克治、山本健一「チロシンキナーゼ Arg は ATM 依存性の DNA 損傷修復経路に関わる」第60回日本癌学会総会、平成13年9月26日
- 2) 小林昌彦、山本健一「酸化ストレス応答における ATM の役割の解析」第60回日本癌学会総会、平成13年9月26日
- 3) S. Xiang, T. Kumano, K. Yoshioka, K. Yamamoto 「The J domain of Tpr2 regulates its interaction with the proapoptotic and cell-cycle checkpoint protein, Rad9」第24回日本分子生物学会、平成13年12月10日
- 4) 池田亜紀子、阿部真澄、馬場義裕、山本健一「DNA-PK と BTK の相互作用の役割」第31回日本免疫学会総会ワークショップ、平成13年12月13日
- 5) H. Shimizu, Y. Li, S. Xiang, and K. Yamamoto 「ATM-dependent roles for Arg tyrosine kinase in homologous recombinational DNA repair」Ataxia-Telangiectasia and ATM 2002 International Symposium、平成14年5月30日
- 6) 清水弘子、山本健一「c-Ablファミリーチロシンキナーゼ Arg は Rad51 による相同組み換え DNA 修復経路に関わる」第61回日本癌学会総会ワークショップ、平成14年10月2日
- 7) 小林昌彦、渡辺雅彦、杉村隆、若林敬二、山本健一「蝶毒ピエリシンの細胞毒性効果のトリ DT40 ノックアウト細胞を用いた解析」第61回日本癌学会総会、平成14年10月1日
- 8) 深尾俊之、金子英雄、山本健一、武田俊一、ラビンマルチン、近藤直実「ATM, BLM ダブルノックアウト細胞の作成とその特徴」第32回日

本免疫学会総会、平成14年12月5日

- 9) 平野淳、向双林、小林昌彦、熊野智康、山本健一「S期チェックポイント制御における高等動物 Rad17 の役割」第25回日本分子生物学会ワークショップ、平成14年12月13日
- 10) 山本健一「ATM-dependent roles for Arg tyrosine kinase in homologous recombinational DNA repair」ワークショップ DNA repair, recombination and mutagenesis 2003, 平成15年2月24日